



食と農
をつなぐ
アワード
2025

食から日本を考える。
NIPPON
FOOD
SHIFT



消費・安全局長賞

部門
02

食品アクセスの確保

成田 賢一

食のアクセスに挑む、ひとりのフードファイター
～移動スーパーとフードレスキューで物理と経済の食の壁に挑む～



高齢化や交通手段の不足で買い物が困難な地域で、2013年から移動スーパーを運営。また、2018年には倉庫をもたないフードバンク活動を行う「ジャパンハーベスト」を設立し、農家や企業から提供される食品を経済的に困難な家庭等に無償提供。

概要

- 岡山県吉備中央町は高齢化率 41% の過疎地域であり、買物困難者が増えていることを受け、移動スーパー事業を開始。
- 移動スーパーは単なる販売にとどまらず、対話と見守りを重視し、生活用品と一緒にネットで探す等、個別対応を行っており、日常の変化に気付いた際には、行政と連携し、地域の安心にも貢献している。
- 農家から寄附された農産物をきっかけに、2018年にフードレスキュー団体を設立し、経済的に困難な家庭への支援を開始し、一般的なフードバンクが扱いにくい短期賞味期限の冷蔵品やパンも対象としている。

基本情報

事業開始年度：2013 年
活動年数：12 年
活動地域：岡山県岡山市・吉備中央町など

成果

- 広島・香川・兵庫・東京の学生チームなど、支援ネットワークの拡大とともに、食品ロス削減と支援活動の両立を実現。
- 経済的に困窮している家庭への支援により、支援を必要としている家庭に対し行政介入のきっかけづくりにも寄与。

審査委員からのコメント

海外事例や他団体との連携だけでなく、地域の実態を丁寧に踏まえた活動と奮闘ぶりには頭が下がります。